

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究
実施方法等

1. 実践校について

実践校名	よこはましりつよこはまそうごうこうとうがっこう 横浜市立横浜総合高等学校		
学科名	生徒数	学級数	
総合学科	1,010	36	

2. 実践研究の対象

全生徒（36クラス、1,010名）を対象とする。

1年次の「産業社会と人間」、2年次以上の「総合的な学習の時間」の履修者が実践の中心となる。

3. 実践研究の実施経過

日にち	対象	授業	内容	講師、連携
4月16日	2、3年	総合	自立について	(株)さんぽう
5月2日	2、3年	総合	コミュニケーションワーク	よこはまユース
5月15日	2、3年	総合	文章、就職、進学講座	市内企業等
5月22日	1年	総合	地域貢献活動	近隣自治会
6月12日	2、3年	総合	分野別学習会	企業専門学校等
7月20日	希望者	イン	福島県矢祭町での農業体験1	(農法)でんぱた
7月21日				
7月22日				
8月3日	希望者	イン	山梨県道志村での林業体験	よこはまユース
8月5日	2、3年	イン	市内企業等で5日間の職場体験	市内企業等7社
8月6日				
8月7日				
8月8日				
8月9日				
8月22日	3年	イン	ソーシャルビジネスプロジェクト全国出場	(一社)未来の大人応援プロジェクト
8月23日				
8月24日				
9月11日	1年	産社	地域貢献活動	近隣自治会
9月14日	希望者	イン	三重県南伊勢町での漁業体験	南伊勢町役場
9月15日				
9月16日				
9月20日	全校	産社	横総未来博	本校他

		総合		
10月19日 10月20日	希望者	イン	福島県矢祭町での農業体験2	(農法)でんぱた
10月23日	全校	産・総	社会貢献DAY(地域清掃活動)	近隣自治会
10月26日 10月27日	希望者	イン	文化祭にて開発商品の販売	ユナガシマ・キッチン
11月2日 11月3日 11月4日	希望者	イン	長野県中川村にて果樹園体験	中川村役場
11月20日	1年	産社	市内企業の職場見学	市内企業18社
11月20日	2、3年	総合	外国人を招いての国際理解教育	岩谷学園留学生
11月27日	2、3年	総合	地域貢献活動	地域自治会
12月14日 12月15日	希望者	イン	福島県矢祭町での農業体験3 (報告会)	矢祭中学校生徒 町関係者54名
12月21日	希望者	イン	横総ミニ感謝祭の実施 矢祭中学校生徒を招いての物販	矢祭中学校生徒 弘明寺商店街
1月22日	2、3年	全体	ポスターセッション(校内) 地域からの課題解決策法国会	南区関係者、地 域関係者、一般
3月7日	希望者	イン	横総大感謝祭(中止)	本校、地域
3月25日	2、3年	総合	年間総括・成果発表 「課題探究発表会」 (中止、資料共有)	市教育委員会

※授業についての凡例

産社：産業社会と人間、総合：総合的な学習の時間、イン：インターンシップ

4. 実践研究の実施体制

(1) 社会参画推進委員会

プログラム実施にあたっては、校内組織に「社会参画推進委員会」を設置し、学習プログラム開発のための取組を組織的に推進した。

構成メンバーは次のとおりとした。

横浜総合高等学校	校長 小市 聡 副校長 角田 武彦 担当教諭 鈴木 泰範、堀谷 沙貴
大学関係者	愛媛大学 社会共生学部准教授 小田 清隆 横浜市立大学 国際教養学部教授 高橋 寛人 前愛知教育大学 副学長 白石 薫二
ようこそカフェ	公益財団法人 よこはまユース 尾崎 万里奈
地域(横浜市南区)	南区区役所子ども家庭支援課 担当課長 小田川 紀可 南区連合町内会長 大津 幸雄 横浜弘明寺商店街総務部長 細井 勇人
インターンシップ	(株)K2 インターナショナルジャパン 福島 真実 信州横濱倶楽部理事 古澤 守 農法「でんぱた」代表 鈴木 正美

その他	ヨコハマリビングラボ代表 杉浦 裕樹
横浜市教育委員会	高校教育課主任指導主事 藤本 貴也

(2) 産業体験実行委員会

第一次産業体験の実施にあたっては、校内に「産業体験実行委員会」を設置し、学習の取組を組織的に推進した。

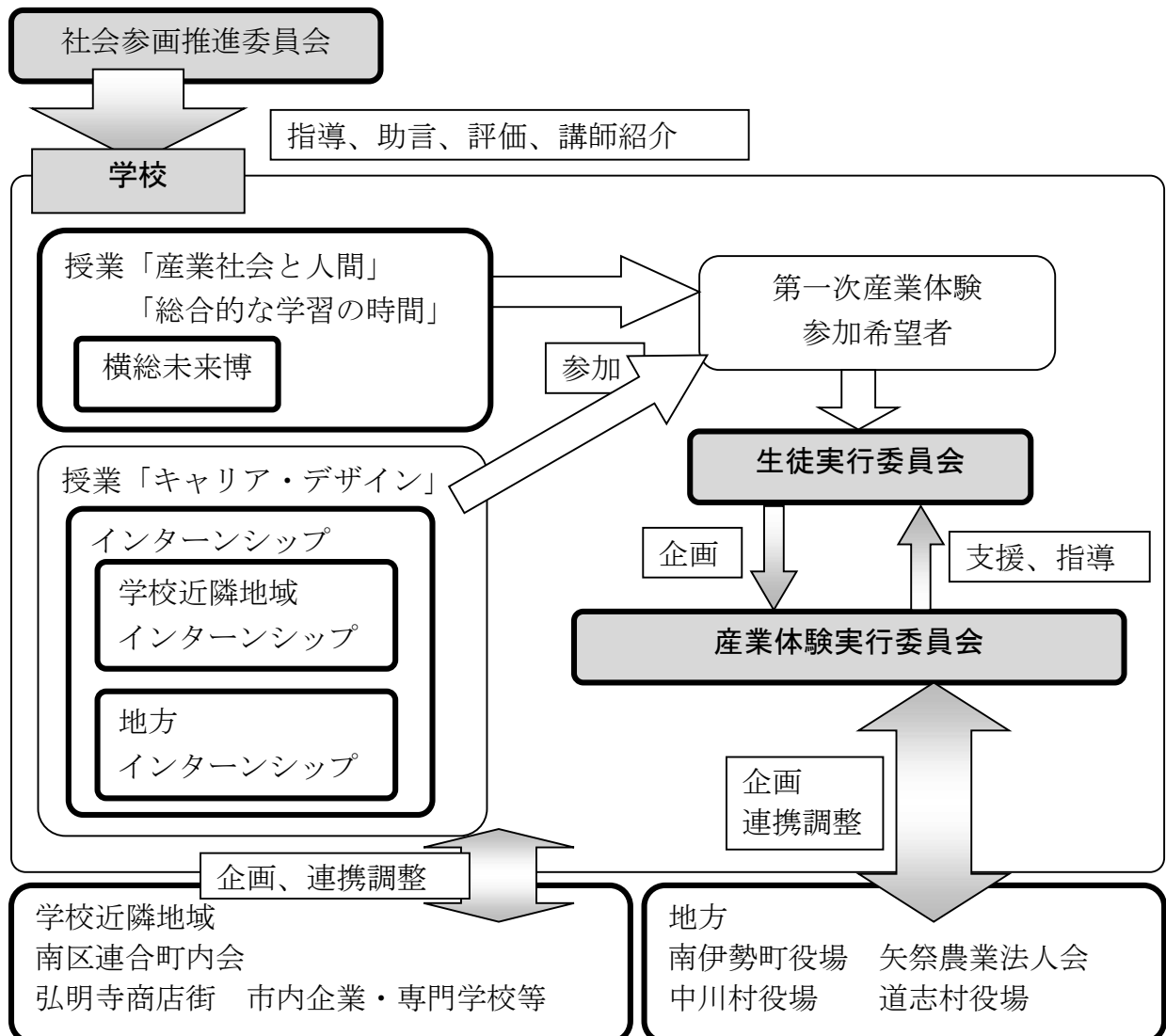
構成メンバーは次のとおりとした。

管理職	校長 小市 聡	副校長 角田 武彦		
担当教諭	鈴木 泰範	久保 芳美	近藤 哲史	鈴木 友也
	堀谷 沙貴	速水 亮	岩谷 聡浩	樽沼 秀夫
外部担当者	前横浜市教育委員 長島 由佳			

(3) 生徒実行委員会

県外で実施する第一次産業体験および「横総大感謝祭」（実習地の物産販売や観光紹介）の企画、実践にあたり、生徒 18 名による生徒実行委員会を組織した。

(4) 実施体制



5. 教育委員会等として取り組んだ内容

(1) 実践研究の充実に向けた取組

横浜市教育委員会は、横浜総合高等学校における実践研究の円滑な実施と学習プログラム開発に向けて、次のとおり学校支援を行った。

ア 担当指導主事の派遣

学校のプログラムを推進する「社会参画推進委員会」に担当指導主事を派遣して、指導・助言を行った。

イ キャリア教育コーディネーターの配置

進路指導の充実を図るため、キャリア教育コーディネーターを配置し、生徒が地域や社会とつながる支援やその経験を自分の将来に生かす助言をとおして、自己肯定感の涵養を図る支援を行った。

ウ 外部指導員を活用した「学び直し」事業

外部指導員を活用した「学び直し」事業の予算支援を行い、生徒の「基礎・基本の学力」の定着と「自立する力」の育成を図り、就学の継続を支援した。

エ スクールカウンセラーの配置

スクールカウンセラーを配置し、課題のある生徒や特別な配慮が必要な生徒などに対して、カウンセリングや面談等を実施して、個に応じた対応を組織的に行うための支援を行った。

オ スクールソーシャルワーカーを活用した外部機関との連携

スクールソーシャルワーカー派遣し、外部機関との連携を行い、課題のある生徒に対する組織的な対応の充実を支援した。

(2) 実践研究成果の普及

横浜総合高等学校の本実践研究の成果の報告及び普及を次のとおり行った。

ア 高等学校経営推進会議での報告

横浜市立高等学校長及び校長代理で組織される高等学校経営推進会議において、当該高等学校長による実践研究の報告を実施し、成果の共有を図った。

イ 課題探究発表会での成果発表

令和2年3月25日、横浜市立高等学校全校の代表生徒による課題探究学習の成果発表会において、本実践研究の取組に参加した生徒の実践報告を、中学生、高校生、保護者、一般等に向けて行う予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、発表会は中止としたが、成果報告の資料については横浜市立高等学校全校で共有し、成果の共有を図ることとした。

ウ 実践研究の成果を生かした取組の充実と他校への普及

生徒の自己有用感醸成のための就業体験等に係る費用や情報発信のための消耗品費、事務費等を対象にした補助を行う等、実践研究の成果を生かした取組を当該校で充実させ、他校でも実践できる取組として普及を図ることを目的に、本市での令和2年からの予算化を検討した。

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

実践校名：横浜市立横浜総合高等学校（総合学科）**概要**

- 授業を通じて社会に必要な知識を身に付ける。同時に学校外から人材を活用し、卒業後の自立に向けた進路に関わる学習プログラムを展開する。
- 卒業後の「社会帰属意識」、「社会参加貢献意欲」、「就業意識」につなげるために校外体験活動の場を作り、「自己有用感」の醸成、「問題発見・解決力」、「社会適応力」を身に付ける学習プログラムを実施する。

学習プログラムの目標

- 課題発見力、課題解決力、社会適応力を育む
将来の自立に向けた基礎・基本の学力を生徒全員が身に付けるとともに、地域や外部人材、広域での多彩な連携を活用した講義や体験の場を設け、生徒の「自己有用感」を高め、「課題発見力」、「課題解決力」、「社会適応力」を身に付けさせる。これを卒業後の「社会帰属意識」、「社会参加意欲」、「就業意識」につなげる。
- 主体的に選択、決定する力を育む
「社会帰属意識」、「社会参加意欲」、「就業意識」等を高め、最終学年では積極的な進路選択ができることを目標とし、卒業時に理由のない進路未決定者を減少させる。

学習プログラムの主な内容

- ① 授業を通じて自立できる知識・技能を身に付ける
【キャリア基礎（学びなおし）・23 時間】 【産業社会と人間・30 時間】
【総合的な学習の時間・30 時間】
すべての生徒が「キャリア基礎（学びなおし）」を受講し、社会に必要な基礎的・基本的な知識・技能を身に付ける。また、「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」で卒業後の社会における自己のあり方を考えさせる。
- ② さまざまな職種を知る 【横総未来博・18 時間】 【職場体験・30 時間】
すべての生徒が各授業の他に 100 以上の企業、大学、専門学校、各種団体等を校内に招いて実施する「横総未来博」や「職場体験」を通してさまざまな職業を紹介し、卒業後の社会を身近に意識させる。
- ③ 学校外の体験による自己有用感の醸成
【地域貢献活動・6 時間】 【キャリア・デザイン・30 時間】
【第一次産業体験活動・72 時間】
全生徒による地域貢献活動、選択授業「キャリア・デザイン」での地域企業インターンシップ、希望者に年間複数回の第一次産業体験活動を実施して、社会との関わりから自己有用感を醸成させる。

④ 課題発見力、課題解決力、表現力を育む

【地域貢献活動・6時間】 【キャリア・デザイン・30時間】

【第一次産業体験活動・72時間】

地域活動で発見した課題の解決策をポスターセッションで地域に公開、インターンシップの成果を企業に報告、第一次産業体験実習地の課題解決を現地で報告する等の体験をとおして課題発見力・課題解決力、表現力を育む。

学習プログラムの成果の概要

○ 主要教科および「キャリア基礎」による基礎、基本の学力保障

国語、数学、英語ではクラスを2分割、キャリア基礎では生徒3人に教師1人の割合の授業を展開し、基礎的、基本的な学力を身に付けた。

○ 「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」を通しての成果

卒業後に半数以上が就職する状況の中で、社会適応力を身に付けさせるため、通常の内容に加えて企業等から講師を迎え、実社会の現状を伝える授業を実践した。これにより生徒は自己の将来についての知識を広げることができた。

○ さまざまな職種を体験する「横総未来博」を通しての成果

100以上の企業、大学・専門学校、団体等の協力により生徒に多彩な職業の紹介をした。同時に、興味を持った職業に就くまでの道のりを示すことにより、生徒の職業に対する関心・意欲が高まった。

○ 学校外の体験「キャリア・デザイン」、「第一次産業体験」を通しての成果

地域インターンシップでは、夏季休業中の地域での活動、体験をもとにした報告会を実施し、体験を伝えるプレゼンテーション力を身に付けることができた。

県外での第一次産業体験は、生徒の職業に対する視野を広げ、興味・関心を高めることができた。特に3回継続して実施した農業体験では、現地中学生、地域の方を巻き込んだ地域振興貢献活動を実施した。これにより生徒には課題発見力、解決力、提案力、コミュニケーション力、実践力が身に付いた。

○ 報告会等による活動成果

地域や行政の方々を対象に、実践をとおして得た成果を生徒全員がポスターセッションで発表した。また、全国大会、実習地域、学校地域、その他市内等での報告、発表を複数回実施し、発表の姿勢、伝わる話し方、わかりやすいスライドの作成など社会人としても通用する態度や技能を身に付けた。

主な発表・報告の実践

月	発表・報告	主催
8月	第4回全国高校生SBP交流フェア	(一社)未来の大人応援プロジェクト
10月	ボランティアスピリット・アワード	プルデンシャル生命保険
11月	高校生東北商店街	高校生東北商店街実行委員会
11月	みなとまち食のアースフェス	食のアースフェス実行委員会
1月	はまっ子未来カンパニープロジェクト	横浜市教育委員会
3月	課題探究発表会	横浜市教育委員会